

# 9月全学連大会へ!

2016年8月16日  
No.396

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

## 8・14改憲阻止集会に650名が結集!

### 沖大自治会委員長・赤嶺君の集会アピール

沖縄から韓国の仲間と連帯して、朝鮮侵略戦争を止める決意を述べたいと思います。

沖縄では参院選後、安倍政権の下で高江のヘリパッド建設が進められています。500人の機動隊を動員しての基地建設が始まっています。「使用不可能な土地を返して新たな基地を作っていく」なんて言っています。辺野古と一体の高江ヘリパッド建設は、まさしく韓国のサード配備と一体の戦争のための基地建設です。「戦争のための基地は絶対に許せない。全面撤去しろ。」こういう怒りが爆発しています。



「どうやって戦争を止めるのか」を多くの人が考えています。7月28日に沖縄の地元紙で紹介された、高江に座り込みに来ている土木労働者の発言に「土木屋の誇りとして基地に反対する。」「公共事業は人を喜ばせるためにある。だけど基地なんてものは地域の分断しか生まないんだ。この精神で止めたい。」とありました。労働者の誇りにかけて基地建設を止めたいと言って座り込みに反対している。ここに僕は沖縄のゼネスト情勢があると思います。かつて名護の市民投票の時に会社の命令で「条件付き賛成」だったことを乗り越えて、作る側としてこういう思いの人はたくさんいると思います。

沖縄 IJBS という99%非正規の中でストライキで闘う組合がいて、僕の沖縄大学キャンパスでは、5月に20歳の女性が米兵に殺される中で、多くの沖大生が「ストライキで戦争を止めよう」と訴える自治会に賛成投票を入れてくれました。6月19日に6万5千人の県民大会が闘われ、この怒りを引き継いで沖縄全島ゼネストで戦争を止めて基地をなくす闘いをやっていきたい。

本土と沖縄の分断を乗り越え、国際連帯で戦争を止める。これに支配階級は震えあがっています。都知事になった小池は、2010年に「辺野古の座り込みは1列目はおじいおばあで、2列めからは県外のプロ市民だ」なんてツイッターで言ってるわけですよ。沖縄の闘いが本土との分断を越えて爆発していることに恐怖している。

今回の天皇メッセージも、まさしく沖縄のゼネスト情勢を天皇制の下で抑え込もうという意思のあらわれだと思います。



そして参院選に東京選挙区から出馬した三宅洋平は安倍昭恵を、現地に言わずに座り込みのテントに引き入れて、命がけで座り込んで闘う人たちに罵声をあびせかけた。こういう左派のツラをした連中もゼネストをつぶすために襲いかかっています。僕は沖大自治会としてあらゆる反動を打ち破って、ストライキを闘いたい。

最後に、夏休み中に沖大当局は僕に処分を下しました。処分決定は8月6日、僕らが民主労総と連帯して広島でデモをしている最中です。処分理由の1つは僕らが5月16日、沖大が全学休校にする中でそれを打ち破って、沖大生と合流して行った反戦集会を「無許可だ」というもの。もう1つは休み時間中に、米軍属殺害事件が起きる中で学生としてどう向き合うのかというクラス討論を行ったことを「授業に影響して開始が遅れた」「授業妨害だ」とするものです。本当にこの処分は沖大がいかに腐りきっているかを示しています。沖大自治会が京大に続き今年、ストライキをやろうとしている。これへの安倍と沖大の攻撃です。

今回の処分は訓告で、もう3回目です。普通は停学とかに上がっていくはずですが。僕をキャンパスから排除することはどれだけの沖大生の怒りを買うのかを沖大は実感していると思います。僕らはこの処分を団結で打ち破る。9月全学連大会に向けて、京大生と連帯してストライキを闘う執行部の団結をつくっていききたい。

処分を撤回し、沖大反戦ストライキで全島ゼネストを実現します。ともに闘いましょう。

## 全学連第77回定期全国大会

◆京都大学4学生への「無期停学」処分粉碎!

◆改憲・朝鮮侵略戦争阻止の大学ストライキを!

9月1日(木)~2日(金) 東京・浜町区民館にて

両日とも午前9時半開始

参加費用=1000円(会場代、資料代など) ※宿泊費は除く



## 齋藤いくま全学連委員長の集会アピール

天皇のメッセージに対して私のほうからも述べさせていただきたいと思います。

私も新聞で全文読みましたが、天皇制は国民統合の象徴なんだと。天皇制が崩壊すれば社会が崩壊するんだと繰り返し述べています。去年の安保関連法案の制定の時に、安倍政権は「国民の生命と財産を守るために集団的自衛権が必要なんだ」と言いました。改めて私は「国民とは誰なのか」ということをはっきりさせなくてはならない。

福島で行われていることは何なのか。原発の再稼働に向かって暴力的なことが行われている。沖縄の高江や辺野古で起きていることは何でしょうか。リニア新幹線の配備のために現地に対して行われていることはなんでしょうか。国民とは一体誰のことを指しているのでしょうか。

最近、フォーブスという経済雑誌が発表したデータによれば、日本の上位13人の資産は13兆2000億円です。この資産は日本人全体の人口の約半分、6000万人に匹敵すると言われていています。これが日本の紛れもない状況なわけですよ。ね。「国民統合の象徴」は、税金で宮内庁のサポートをもらって、のうのうと生きている。何が国民の統合なんだ。自分と団結しろともいうのか。

そういう奴が、同じ日本人なんだからいいじゃないかと手を差し伸べることにに対して、私たちは改めて、僕らが向き合っている現実の中から、ふざけんってことをはっきりさせなくちゃいけない。断固として、天皇という生まれながらに偉いやつがいる制度に対して、団結してともに生きていくために、そういう差別をすべて廃止する立場から、論陣も含めて反撃していかなければならない。

私たち全学連は、1948年に結成されて、当時の重要なスローガンとして「大学の民主化」を掲げました。そしてそのための具体的な行動として「戦犯教授の追放」、一般的な戦犯ではなくて政府の御用学者を大学から追放するんだということを民主化の具体的中身として掲げました。いま政府は去年の安保関連法案の制定と一体で、大学において堂々と軍事研究を始め、それが「学問の自由」と言い出しています。そしてまさしくそういう状況に反対して、京都大学の仲間が「大学から戦争反対の声をあげよう」「具体的に止めるために僕ら自身がバリケードをはろう」という決意を示して、昨年10月27日、私たち全学連全体として、京都大学での反戦バリケードストライキに取り組みました。

いまその先頭に立った4人の京大生に対して無期停学の処分がかけられています。京都大学の戦後70年の歴史の中で初めてです。1958年、京都大学で学生自治会同学会を再建しようと北小路敏さんが訴えたとき、その選挙を中止しろという当局の告示を無視して選挙をやって無期停学処分になるということがありました。今回の反戦ストライキに対しての無期停学処分というのはそれすら超えた歴史上初めての処分です。まさしく集団的自衛権が合法になる、大学で軍事研究が自由



だと言われる時代に、学生のストライキが処分の対象となるという中に、今のこの国の真実が、改憲の具体的中身が一体何なのかということ、戦争というものが具体的にはどう進められるのかの本質が示されていると思います。

すでに私たち全学連は、今年の3月に、京大バリケードストライキをやったことで私を含めた6名が逮捕されました。けどその時に、京都を中心に多くの方の支援を頂いて、京大反戦バリケードストライキは無罪であること、6名の不起訴釈放をかちとっています。

すでに京都市内で、京大生を中心に行っている処分撤回の署名はものすごい勢いで集まっています。私たちはこれをチャンスだと思っています。ストライキは合法であり権利であること、これはいま残念ながらあらゆる勢力が言わなくなっています。けど僕らはこの闘いを通して、もう一度、労働者自身が、学生自身が自分たちの生きるこの現場を自分たち自身の行動で変えることができるんだと示していきたい。

この闘いを広げることを通して、日本の社会を、大学の現状を変えていきたい。それと一体で、沖縄大学・赤嶺君の処分も撤回させ、「全国の大学でストライキを実現する学生運動を甦らせていきたい。ぜひ皆さんに処分撤回含めた支援をお願いします。

最後に、本日の集会で「ストライキと国際連帯で戦争止めよう」と言われています。私自身、運動を始めたころ仲良くしていた全学連とは違う運動の団体との関係ではっきりさせたいのは、その人たちはシンポジウムなどで「フランスでは道いっぱいのデモをやっている。ドイツでは空き家を民衆が占拠して暮らしている。しかし日本ではまだできない。」と言っていました。みなさん。国際連帯というとき、日本と世界は別のところにあるんじゃないやしません。世界というのはここです。僕らは「国際連帯とストライキで戦争を止めよう、世界を変えよう」と言うとき、何より変えなければならないのは僕らが向き合っている現実だと思います。私たち全学連は11月労働者集会で日韓国際連帯をつくるにあたって、何より僕ら自身が最初は少なくとも、現場と向き合って世界を変えることをもって、11月集会の成功に突き進んでいきたい。労働者・学生・市民の皆さん。11日日韓労働者国際連帯の行動へ向けてともに突き進んでいきましょう。私たちは全学連大会の成功をかちとって、全国大学ストライキに突き進みたい。ありがとうございました。